

「けやき俳句の会」会報（第七十九回）

平成三十年五月二日

第七十九回句会記録

★日時 五月二日

★場所 けやき学習室

★参加者 二十名

（総数六十句）

★真樹先生投句

③ 寂光の背山の墓域躑躅山

② つばくらの背から宙返りして捕食

② 背信のさびしらに耐え春の海

★真樹先生選句（◎は特選）

◎② つばくろも呼び寄す指笛コンサート 藍愛

◎① 塩辛蜻蛉背なに留め置き野を歩く 而今

◎① 両親の背な偲ぶる昭和の日 要

◎① 背節削る亡母偲びし春の昼 清明

⑩ 初鯉背割鮮やか板前の 冬水

③ 語り草になるか昭和の紫雲英草 夢城

③ 西郷どん今の世を見る背に新樹 紀泉

③ 俯せの孫の背小さし春炬燵 而今

② 生き継ぎし藪の雉鳴く荒れ田かな 夢城

① ランドセルの背を押し押しして春疾風 青嵐

① 清明や神の社に噉（ひ）が昇る 紀泉
 ① 津軽かな畏友二人と惜む春 冬水
 ① 後輩に託し背を向け春落葉 一華
 ① クレソンの白き髭根や水挿しの 遙風

★会員互選句

⑨ 気負ひてもすぐに気を抜く鯉のぼり 東洋
 ⑥ 律儀とは少し窮屈鉄線化 要
 ⑤ 固き背のふと緩びたる初音かな 藍愛
 ④ 万年のせんたく岩に佇ち卯波 紀泉
 ④ 背に負いし想い出多し昭和の日 蕉哉
 ③ 生きざまの煙となりて蓬かな 夢城
 ③ 椅子の背にかけて忘れし春ショール 東洋
 ③ 春帽子鬱を払いて背を伸ばす 遙風
 ② 北国へ早足駆ける春景色 清明
 ② 春筍の鎧嬬やか風隠れ 清明
 ② 炭はぜる漢等の黙埋める酒 青嵐
 ② 蜜蜂の羽音忙しくベランダに 而今
 ② メーデーやたぎる血潮の頃もあり 冬水
 ② 春満月夜明けの空に溶けゆけり 夕佳
 ② チバニアン期待背おうて春の夢 高志
 ② 川風を遊ぶ数多の鯉鱈 樹音

【次回開催】

★日時・六月六日（水）

★場所・けやき学習室

★提出句・兼題「指」を含み三句